

# タシの試験

ルーシー・スティーブソン・イーウェル  
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、ジンバブエでの出来事です。

先生が生徒たちに答案を返している間、タシは深く息をすいこみました。ただのもぎ試験でしたが、自分の点数を見るのが不安だったのです。

今年は小学校の最後の年で、タシはたくさんの試験を受けます。算数と理科の試験のほかに、言語の試験も受けなければいけません。ジンバブエでは、英語とシヨナ語で書いたり、話したりすることを学びます。シヨナ語はタシのいちばん苦手な科目でした。

「はい、タシ。」先生がタシに点数を手わたしました。算数は良い点でした！ 英語もかなり良い点です。でも、シヨナ語の点を見ると、気分が重くなりました。まったくだめだったのです！

タシは学校から家に帰る間、ずっと下を向いていました。「どうしたの？」とお母さんが聞いてきました。「シヨナ語のもぎ試験の点が良くなかったんだ」とタシは言い

ました。「シヨナ語はずっと苦手なんだ。本番の試験に落ちたらどうしよう。」

お母さんはタシと一緒にすわると、点数を見ました。「もっと練習が必要みたいね。」

タシはうめき声を上げました。

「シヨナ語で書く練習をするという目標を立てたらどうかしら。」お母さんはタシの『子供のガイドブック』を取り出すと、最初のページに書いてあるせいくを読みました。「イエスはますます知恵が加わり、せたけものび、そして神と人から愛された。\*」



イラスト／ポーリン・グレゴリー

タシは努力の成果が出るように  
いのりました。



年長の子供たちへ

した。それでも練習し続けました。

タシの先生は「すごく上達しているね」と言ってくれました。

タシは一生懸命取り組んでいる自分をほこりに思いました。

そして、ついに試験の日が来ました。もう一度いのり、天のお父様の助けを願い求めました。

先生が生徒たちに試験を配り、タシは鉛筆を手にしました。書き始めると、温かい、平安な気持ちを感じました。タシはそれがせいれいだと知っていました。天のお父様がタシを安心させ、助けてくださっていたのです。

試験が終わると、タシはそのことについて親に話すのが楽しみでした。まだ何点を取ったかは分かりませんでしたが、良い気持ちを感じました。最善をつくしたのです。

「あなたをほこりに思うわ」とお母さんが言いました。

「ありがとう！」タシはほほえみ、『子供のガイドブック』を取り出して、もう一度あのせいくを読みました。でも一つだけ言葉を変えました。「タシはますます知恵が加わり、せたけものび、そして神と人から愛された。」●

お母さんはタシにほほえみかけました。「イエス様は少しずつ成長されたの。あなたもできるわ。」

「分かった」とタシは言いました。「天のお父様がぼくを助けてくださると思う？」

「助けてくださるってお母さんは知っているわ。」

その夜、タシはいのりました。「愛する天のお父様、ぼくがシヨナ語の試験に合格できるように助けてください。学んで、もっとうまくなるように助けてください。イエス・キリストの御名によって、アーメン。」

タシは助けを求めているのれることに感謝しました。でも、自分でも努力する必要があると分かっていました。毎日、シヨナ語で書く練習をしました。先生たちにも特別に助けてもらいました。友達と遊んだり、ほかのことをしたいと思うこともありま